

平成27年6月17日

「いじめをなくすために、今」を読んで

岡山県備前市立伊里中学校

この作文は、いじめの傍観者(止められなくて、周りでただ見ていた人)だった筆者が、父親の死をきっかけに「命の尊さ」について考え、勇気を出していじめを止めた話です。

- ・私はストレスを関係の無い人に当てつけているだけだと思った。自分ではからかっているだけのつもりでも、相手には嫌がらせだと思われるんだとわかった。誰かが死んでから命の大切さを学ぶのではなく、普段から一人ひとりが意識するのが大切だとわかった。
- ・僕も言葉の重みを知らずに、友達とかに暴言をはいたことがあるので、しっかり頭の中で考えて言葉を発していきたいです。
- ・いじめを見ても、次は自分がいじめられるかもしれないから、見て見ぬふりをする自分がいるけど、何か自分を変えるきっかけがくるまで、変わらないのはだめだから、早め早めに後悔しないようにしたい。
- ・これからもしこんな事があったら、相手のことをしっかり考えて、自分が止めるような信頼される様な人になりたいから、これからの学校生活をちゃんと充実できるようにしたいと思った。
- ・「死ね」「消えろ」など「死」に関わる言葉は絶対にわないようにしようと思いました。いじめをなくすために、まず自分がいじめをしないということを気をかけたいです。
- ・あまりこういった経験は無いけど、友達がいじめをていたなら止めたいです。逆にいじめられていたらなさめたり、声をかけたいと思いました。
- ・学校やクラスという集団の中のたった一人の勇気でじめがなくなるというのは、すごいと思いました。もしも、ひどいいじめが起こっているのなら、学校やクラスみんなが勇気を出して、いじめはだめだと言えたら、いい集団になると思いました。
- ・自分がもし、そのような立場にあったら、見て見ぬふりをしたと思います。筆者は本当に勇気のある人だと思いました。心の中で思うことは誰でもできますが、いざ他人に言おうとしても、普通は言えないと思います。この人の勇気ある行動でまわりの人は変わったんだとわかりました。自分もそのような場面にあったら、勇気を出して言おうと思います。
- ・父の死で悲しんでいるのに、他人の事を考えてあげる心の広さや、人に(正しいことを)言える勇気を自分も持ち、これからの人生に使っていきたい。改めていじめについて一つわかった。
- ・「死ね」「うざい」「消えろ」など、どんどんエスカレートしていったら、大変なことになるかもしれない。先生や家族に相談してみたらいいと思う。自分の命を大切にしないといけないと思った。
- ・僕も小学校の時、友達とケンカするとつい暴言が出てしまっていました。今、中学生ですが、「言わないぞ」と常に意識しています。また、友達がいじめにあっていたら、いじめをしている人にひと言かけられたらなと思います。

- ・父の死をきっかけに、命の重みを深く受け止められたからこそ、止めることのできたいじめですが、こんなにもうまくいじめを止められたのはキセキだと思います。何に影響されるでもなく、自分の意志でとっさに友達を助けることこそが一番だと思います。自分もこういうことができるように、今を大切に生きていこうと思います。
- ・本当はK君を助けたかったけど、言ったら今度は自分がいじめられると思い、どうしようもできず、大変だったと思う。
- ・「人は何かがなくなってから、大切さを理解する」という言葉が頭をよぎりました。作者も父の死で生きることの大切さがわかったと思います。そして、勇気を出せば人を助けられるということもわかりました。僕も人の気持ちを考えて、できるだけ多くの人を助けられるようにがんばりたいです。
- ・小五なのに、父親の死によっていろいろなことを得たことは、とてもすごいと思いました。先生でも止められなかったいじめを止めたということを知って、とても驚きました。また、いじめられていたK君も、いじめたA君を簡単に許していることにも驚きました。とても器の大きい人だと思い、尊敬します。
- ・最初は小さいいじめでも、それがまた、大きくなることがわかった。・・・勇気をもって注意できる人になりたいです。
- ・自分がいじめられるからと、友達を見捨てるやつにはなりたくないのに、怖くても勇気を出して、いじめ防止に努めたい。
- ・今は、正直「死」ということは知ってはいるけど、その重さはまだわかりきっていないので、普通言っちゃってるけど、これを読んでちょっと意識して生活しようと思いました。「正しいことを素直に認め、悪いことを否定できる強い意志をもつことが目標」とありますが、自分もそんな目標をもっていきたいです。いじめがエスカレートしたとき、勇気をもって「やめろよ」なんて言える人間になりたいと思いました。
- ・友達が暴言を言ったり、いじめをしても決してそれに参加せず、その友達におびえず声をかけたい。そして、その友達やいじめを受けている人と一緒に仲良く学校で過ごしたいと思います。
- ・周りの人にとって、少しのからかいなどは「いじめ」とまでいかないものだろう。けどやられている本人は違う。1つ1つの小さいことで傷ついている。「死ね」「うざい」は今では冗談で言っているくらいの言葉になってしまっている。たとえ本気でなくても「死」という文字は体験しないとわからないくらい重いものだ。私も自分が気づかずに人を傷つけているかもしれない。自分の1つ1つの行動にもっと責任をもって生きようと感じた。
- ・強い意志... 私にはいま「後悔しないような今日を」という意志があります。・・・この話を読んで、私も人を傷つける言葉をつい言ってしまい、後で後悔することが多いなと感じました。これからは後悔しないように今を大切にしていこうと思います。
- ・第3者の立場も、とても辛いものだと思った。どちら側の立場でなく「見て見ぬふり」もだめだと思います。でも最後には、ちゃんと言いたいことを言うことができ、すごいなと思いました。先生も生徒からの相談や警告を見逃さないことも必要だと感じました。私が「僕」の立場になったとき、しっかり言いたいことを言って、少しでも改善したいです。

- ・もしもクラスにいじめがあったら、私は見て見ぬふりをするのかもしれませんが。でも少しの勇気で、いじめがなくなるのであれば、一歩ずつでもいいから踏み出していける、そんな人になりたいです。
- ・冗談でも「死ね」は傷つくし、不快に思う。
- ・言い方も口から出る言葉すべてを、相手にそのまま言うのではなくて、一回頭の中で考えて言うように心がけていこうと思いました。もし、いじめられていたとしたら、私もいじめを止める側の人になりたいと思いました。見て見ぬふりをしたり、陰でぐちぐち言ったりせずに、相手にはっきりと言えるような人になりたいし、自分の意志をもてるような人間になっていきたいと思いました。

<先生から>

みなさんの感想を読むと、何も考えず、つい、かっとして「言ってた」という素直な感想がたくさんありました。また、言っていたこともあるけど、言わないように努力しているという人も・・・。「言葉」って難しいですね。暴言は言われた人だけでなく、聞いている人みんなが不快に思うし、クラスやその集団の雰囲気壊してしまいます。暴言はみんなの問題です。

また、最近「顔の見えない会話」メールやラインなどネットを通じて傷つけ合う危険もありますね。気持ちの押し量れない「言葉」だけの会話って怖いと思います。しかも、その「言葉」だけの会話を自分達以外の人が大勢知っていたら・・・「考えて言葉を使わないと」と書いていますが、相手がどう理解するかわからないネットでのコミュニケーションにはくれぐれも注意！！傷つけ合う前に、顔を見てきちんと伝えよう！！